

二〇二一年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(一回)

国語

注意事項

- 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 問題は**一**から**二**、2ページから17ページまであります。  
合図があつたら確認してください。
- 解答は、すべて指示に従つて解答らんに記入してください。

□ 次の文章を読んで、後の一から八までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

学ぶというのは創造的な仕事です。

それが創造的であるのは、同じ先生から同じことを学ぶ生徒は二人といないからです。だからこそ私たちは学ぶのです。

私たちが学ぶのは、万人向けの有用な知識や技術を習得するためではありません。自分がこの世界で、ただひとりのかけがえのない存在である、という事実を確認するために私たちは学ぶのです。

私たちが先生を敬愛するのは、先生が私の唯一無二性の保証人であるからです。

もし、弟子たちがその先生から「同じこと」を学んだとしたら、それがどれほどすぐれた技法であっても、どれほど洞察に富んだ Aチケンであっても、学んだものの唯一無二性は損なわれます。だって、自分がいなくても、他の誰かが先生の教えを伝えることができるからです。

だから、弟子たちは先生から決して同じことを学びません。ひとりひとりがその器に合わせて、それぞれ違ちがうこと学到び取つてゆくこと。それが学びの創造性、学びの主体性ということです。

「この先生のこのすばらしさを知っているのは、あまたある弟子の中で私ひとりだ」という思いこみが弟子には絶対に必要です。それを私は「誤解」というふうに申し上げたわけです。

それは恋愛において、恋人たちのかけがえのなさを伝えることばが「あなたの真の価値を理解しているのは、世界で私しかいない」ということです。①この先生の真の価値を理解しているのは、私しかいない。

でも、「あなたの真価を理解しているのは、世界で私しかいない」という言い方は、よく考えると変ですよね。

それは、「あなたの真価」というのは、たいへんに「理解されにくいもの」であるということですから。つまり、あなたは、誰もが認める美人や誰だれにも敬愛される人格者ではないということですから。

不思議な話ですけれど、②愛の告白も、恩師への感謝のことばも、どちらも「あなたの真価は（私以外の）誰だれにも認められないだろう」という「世間」からの否定的評価を前提にして、いるのです。

でも、その前提がなければ、じつは恋愛も師弟関係も始まらないのです。「自分がいなければ、あなたの真価を理解する人はいなくなる」という前提から導かれるのは、次のことがです。

だから私は生きなければならぬ。

3

そのようなロジックによって、私たちは③\_\_\_\_\_のです。

私たちが「学ぶ」ということを止めないのは、ある種の情報や技術の習得を社会が要求しているからとか、そういうものがないと食つていけないからとか、そういうシビアな理由によるのではありません。

もちろん、そういう理由だけで学校や教育機関に通う人もいますが、そういう人たちは決して「先生」に出会うことができません。だって、その人たちは「他の人ができることを、自分もできるようになるため」にものを習いにゆくわけですから。資格を取るとか、ナントカ検定試験に受かるとか、免状を手に入れるとか、そういうことは、「学び」の目的ではありません。「学び」とともなう副次的な現象ではありますけれど、それを目的にする限り、そのような場では、決して先生に出会うこととはできません。

④先生というのは、「みんなと同じになりたい人間」の前には決して姿を現さないからです。

だって、そういう人たちにとつて、先生は不要どころか邪魔なものだからです。

先生は「私がこの世に生まれたのは、私にしかできない仕事、私以外の誰だれによっても代替できないような責務を果たすためではないか……」と思つた人の前だけに姿を現します。この人のことばの本当の意味を理解し、このひとの本当の深みを知つて、いるの

2

は私だけではないか、という幸福な誤解が成り立つなら、どんな形態における情報伝達でも師弟関係の基盤となりえます。

書物をBケイユしての師弟関係というのはもちろん可能ですし、TV画面を見て、「この人を先生と呼ぼう」と思う」とだつて、あつて当然です。

要するに、先方が私のことを知つていようが知つていまいが、私の方に「このひとの眞の価値を知つてゐるのは私だけだ」といふ思い込みさえあれば、もう先生は先生であり、「学び」は起動するのです。

「学びの主体性」ということばを私はいま使いましたが、このことばが意味するのは、生徒がカリキュラムを決定するとか、生徒の人気投票で校長先生を選ぶとか、授業中に出入り自由であるとか、そういうことではあります。まさかね。生徒自身を教育の主体にするというのは、そういう制度的な話ではありません。「学びの主体性」ということで私が言つているのは、人間は自分が学ぶことのできることしか学ぶことができない、学ぶことを欲望するものしか学ぶことができないというCジメイの事実です。

当たり前ですよね。

どんなにえらい先生が教壇に立つて、どれほど高尚なる学説を説き聞かせても、生徒が居眠りをしていては「学ぶ」という行為は成就しません。<sup>⑤</sup>日本の高校生の前でソクラテスがギリシヤ語で哲学を語つても、それこそ It's Greek to me です。学びには二人の参加者が必要です。送信するものと受信するものです。そして、このドラマの主人公はあくまでも「受信者」です。

先生の発信するメッセージを弟子が、「教え」であると思い込んで受信してしまうというときに学びは成立します。<sup>⑥</sup>「教え」として受信されるのであれば、極端な話、そのメッセージは「あくび」や「しゃつくり」であつたってかまわないのです。「嘘」だつてかまわないのです。

〔注〕 \*1 ロジック＝論理。

\*2 副次的＝二次的なさま。

\*3 カリキュラム＝教育内容の計画。

\*4 ソクラテス＝古代ギリシャの哲学者。

〔『先生はえらい』 内田樹<sup>うちだ たつる</sup>〕

問一 一線A「チケン」・B「ケイユ」・C「ジメイ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

(一画一画ていねいにはつきりと書くこと。)

問二 一線①「この先生の眞の価値を理解しているのは、私しかいない」とありますが、このようなどらえ方を筆者はどのように表現していますか。最も適当な言葉をこれより後の本文中より五字で探し、抜き出しなさい。

問三 一線②「愛の告白」を説明した以下の文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中より七字で探し、抜き出しなさい。ただし、空らんには同じ言葉が入ります。

愛の告白は、相手の( )を伝える言葉であるとともに、相手に対する自分の( )を確認するものである。

問四 空らん ③に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人生の意義を教えられている イ 師への否定的評価を覆している ウ 師への感謝を表している
- エ 教育の眞の意味を理解している オ 自分の存在を根拠づけている

問五 一線④「先生というのは、『みんなと同じになりたい人間』の前には決して姿を現さない」とありますが、これについて以下の間に答えなさい。

I

「みんなと同じになりたい人間」の前に現れる人とはどのような人ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰だれもが教えられるようある種の情報や技術を提示できる人。

イ 検定試験の合格や免状の取得にも学びの価値を見い出せる人。

ウ 学びの副次的な事柄ことがらと本質的なものとを正しく区別できる人。

エ 他の誰だれによつても代替だいたいできないような仕事を追い求める人。

オ 先生の人格を通して生きる上での現実的な知恵ちえを学ぼうとする人。

II 「先生」とはどのような人間の前に現れるのですか。次の説明文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中より五字で探し、抜き出しなさい。

自己の( )を求める人間。

問六 一線⑤「日本の高校生の前でソクラテスがギリシャ語で哲学を語つても」とありますが、こゝでの「日本の高校生」とはどのような人間ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 集中力が持続せず居眠りいねむりをする人間。

ウ 人生における哲学の意義を理解できない人間。

オ 高尚な哲学を学びたいと思つていない人間。

イ ギリシャ語を理解できない人間。

エ 様々な学説に耳を傾けかたむない人間。

問七 一線⑥「『教え』として受信されるのであれば、極端な話、そのメッセージは『あくび』や『しゃつくり』であつたってかまわないのです」とあります。なぜこのように言えるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 相手からのメッセージを「教え」として盲信もうしんしている以上、どのような情報であれ何らかの価値を認めないわけにはいかないから。

イ 相手を真に理解しているのは自分だけだと思い込んでいれば、情報伝達の形態を問わず自ら学び、必ず何らかの価値を発見できるから。

ウ 相手がどのような形態で情報を伝達してきても、師弟関係の基盤きばんを整えていく上で特に問題にしなければならないことではないから。

エ 一見意味のないように見えても先生からのメッセージというだけで価値が生まれ、そこに学びがあるかどうかは問題ではないから。

オ 師弟関係において先生という存在は絶対的であり、どんな些細なことからも教えを汲み取ろうと努めることは弟子として当然だから。

問八 筆者は「学び」をどのようなものと考えていますか。五十字以内で説明しなさい。

二 次の文章を読んで、後の一から九までの各問い合わせに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問い合わせすべて句読点・記号も一字とする。)

授業が終わってぼくは、逃げるように家に帰った。リュックをダイニングのフローリングに投げ出して、コップに水を入れて一気に飲んだ。それから自分の部屋に入つてベッドに仰向けにひっくり返つた。

「どう考へても、これは好きつてことだよな」とぼくは口にだして言つてみた。それだけでもぼくの心臓はトクトクと勢いよく血を流し始めた。

目を閉じると中村のほほえみが浮かんでくる。まずいと思つたぼくは目を開けた。

ぼくは、中村が好きだ……。

今日の中休み、ほほえみかけられるまでぼくは、中村を好きとか嫌いとか思つたことはなかつたと思う。①どうしていつも大声で笑わないで、ほほえむのがなつて気になつていただけど、それは好きとは関係ないだろ。違うのかな?

なんだかよくわからなくてぼくは不安だつた。

この日から、ぼくは自分がすつかり別の人間になつてしまつたような気がした。

ぼくの頭の中は中村のことで一杯になり、気づくとすぐに中村を見ていた。教室でも廊下でも運動場でも、中村を探していた。

②中村を見ているとドキドキするけど、ホッとして、ちょっと泣きたくなつて、そんな自分に腹が立つたりした。

タクトたちは、今まで通り、話をしているつもりだけど、すぐに会話を離れてしまう。「イオリ、集中力をどこに置き忘れてしまつたんだよ」とタクトにあきれられ、「調子の波は誰にもあるし、イオリは今テンションが低い時期なんだよ」とルイになぐさめられた。

ルイにはそう言われたけど、ぼくのテンションはきっと高い。だつて、中村のことで頭がいっぱいです、いつも熱いのだから。仲の良いタクトやルイより、中村のことの方が気になる。ぼくは友だちに冷たくなつてしまつた。

誰かを好きになるつていうのは、少しずつ、ああ、いいなと思つていくのから始まるつて考えていた。それから、付き合つてくださいつて告白して、OKなら、休みの日に一緒に遊びに行つたりする。そんな風に考えていた。

まさか、ちょっとほほえまれただけで、突然好きになつてしまふとは思つていなかつた。

アイドルをテレビやネットで見て、可愛いなと思つてすぐに好きになるつていうのはあるかもしない。でも、中村とは五年生から一緒で、どんな女子かは詳しく知らないても、クラスのメンバーとして、見慣れた女子の一人だつた。中村はぼくにとつて、そしてぼくは中村にとつて、別にA目新しい存在ではない。ぼくが六年二組のクラスの一員つていうのと同じように、中村もクラスの一員。それだけだつた。それが、③どうして、こんな気持ちになるか、ぼくにはわからない。

好きになつたとしても、ぼくは中村と付き合いたいとか、そんなことを全然思つていない。ただ、中村が気になつて、中村を探して、中村を見ていたいだけだ。

だいたい、ぼくは中村のことをどれだけ知つてゐるだらうか?

クラスの一員。大声で笑わない。話すときは小さな声。授業の時に自分から手を挙げたことはないような気がする。ぼくはこれまで中村を気にとめていなかつたから、もしかしたら自分から手を挙げるのをぼくが知らないだけかもしないけど。髪はツインテール。これだつて今まではどうだつたか、ぼくは知らない。記憶にない。

ぼくが持つてゐる中村の情報はそれくらいだ。それなのにはぼくは、中村を好きになつてゐる。

十一年も生きてきたのにぼくは、好きになるつてことを、全く誤解してゐたのだらうか?

家に帰つてからぼくは、アルバムを広げて、遠足や運動会でのクラス写真を眺めるようになつた。写真の中の中村を眺めてい

たかった。

五年生の遠足で行つた科学館の前での集合写真の中村は右端二列目に立つていて、無表情だ。小さな写真なのでぼくは、虫眼鏡ゆめがねを出してきて拡大したけど、間違まちがいなく無表情だつた。五年生の運動会クラス対抗たいこうで勝つたときの写真ではみんながはしゃいでいるんなポーズを決めて笑つてゐるけど、中村はBぼそと立つて無表情。実はぼくもそうなんだけど、ぼくの場合は運動会が苦手だからだ。中村もそうなんだろうか？ 中村は遠足も運動会も嫌いなんだろうか？

写真を見てわかつたのは、中村は遠足でも、運動会でもツインテールだつたつてこと。それだつたら今まで、ずっとツインテールなのかも知れない。

無表情で無愛想でも、ぼくは写真の中の中村も好きだつた。

中休み、タクトとルイの隙間すきまから中村を眺め始めて一週間が過ぎた。ぼくはなるべく見ないように、見てしまつてもすぐに目をそらすように努力したけど、それでも、すぐに見たくなつた。ツインテールの左側に時々触れるのとか、長いまつげがパチパチ動くのとか、ちょこつとだけ肩かたをすくめるのとか、そして薄いほほえみとか、それら全部が好きだつた。

授業中、中村のツインテールも、首も、肩も、みんな見たいし、でも見たくないし、見るのが怖いし、ぼくは下を向いたり、黒板に集中したりして、時間を過ごしてゐた。

ぼくは、誰かを好きになると、浮き浮きして、楽しくなつて、幸せになつて、飛び回りたくなる、そんな想像をしていたけど、これつてそういうのとは全然違ちがつた。

いつも、落ち着きがなくて、友だちとの会話にも乗れなくて、息苦しい。

好きつて、きつい。

十日も過ぎた頃ころ、いつも目で追つたり、写真を眺めたりする自分ながつてストーカーみたいだつて思つた。

やつぱり、本当に好きになるつて、段々気になり始めて、好きつて告白するつていう順番に進むことで、ぼくのはおかしいんじやないかつて不安になり始めた。

中村ばかり見ている自分がいやで、ぼくは中休みに眼鏡めがねを外した。みんなの顔がボーッとしか見えない。

「イオリ、なんで眼鏡めがねを外してゐるの？」とルイ。

「こうしていたら、目ががんばつて見ようとするから近視がよくなる」

「眼科で、そう言われたの？」とルイ。

「言われてない」

「なんだよそれ」とタクト。

「ぼくが考えた」

「なんだよ、それ。で、どうよ」とまたタクト。

ぼくは二人の間から教室のみんなを見た。輪郭りんかくがぼんやりしていて、誰が誰かはあんまりわからない。だけど、そのぼんやりとした輪郭りんかくの中のどれが中村かはわかつた。いつも上野の席に座つてゐるからかなと思つたけど、上野と高木はどつちがどつちかよくわからない。

「イオリ、聞いてる？」

ルイがぼくの顔のぞを覗き込んでいた。

「あ、ごめん。やつぱり思いつきだつたわ」

「あつさり、自分の仮説を引っ込めるのな」とタクトが笑つた。

「間違まちがいはすぐにあらためるのが、ぼくの良いところ」

と言いながらぼくは、眼鏡をかけた。

昼休み、校庭でぼくたちはいつものようにバス回しをして遊んだ。桜の木の下に、中村と上野と高木が集まって話をしているのが見える。ぼくの視線はまた中村に貼り付いてしまった。

だめだ。

「イオリ、バス」

タクトの声がして、ぼくの横をサッカー ボールが転がつていった。

「まじめに遊ぼうな」とルイが言って、「まじめに遊ぶのは変だろ」とタクトが笑つた。

「あ、悪いけど、ぼく、疲れたから休憩」とぼくが言うと、「体力なさすぎだろ」とタクトが言いながら手を振つた。

ぼくはベンチに移動して座つた。やっぱりぼくは中村から目を離せない。

ぼくはまた、眼鏡を外してみた。そして中村たちのいる方を見た。上野と高木は、どつちがどつちが全然わからないけど、こんなに離れていても中村はわかった。中村だけにピントがあつていいわけじゃない。中村もボーッとしか見えないけれど、あれが中

村だつてことはわかった。

そんなの、理屈に合わないって、ぼくの中のぼくが主張する。そして、ぼくも、そっちの意見の方が正しいと思う。だけど、ぼくの裸眼は中村を他の人と区別できている。

一体ぼくはどうなつてしまつたんだ。好きになるつて、変な能力をアップさせてしまうのだろうか？

五、六時間目の授業をなんとかクリアしたぼくだったけど、遠くから眺めたり、背中を見ないように下を向いたり、このままの状態が続いていくのはなんだか耐えられなくなつてきた。

好きって、きついよ。

決心をしたぼくは、④校門で中村に声をかけた。

「中村、えーと」

「何？」

中村の無表情に、逃げ出したくなつたぼくは、何を言つたらいいかわからなくなつた。

そしてぼくの口から出た言葉は、「なんで、いつも思い切り笑わないの？ なんでいつもほほえんでいるの？」だった。

最低だ、ぼく。失礼だ、ぼく。好きになるつて、きつすぎる。

中村はぼくを見つめて、ほほえみを浮かべ、答えた。

「だつて、学校、嫌いだから。嫌いな場所で心から笑うなんてできないよ、西山」

え？

⑤そんな答えが返つてくるなんて思つてもみなかつた。つて、ぼくはどんな答えを期待していたんだろう。

「中村、勉強がきらいなの？」

「好きなのも嫌いもあるよ。算数は好き。国語は嫌い」

「そつか。ぼくも算数は割と好きだな。成績は悪いけど。国語は、漢字を覚えるのがたるいな。中村、勉強が嫌いってわけじゃないんだ」

「そう。学校が嫌いなだけ」

「えーと。じゃあ、学校の外では、ギャハハとか笑うの？」

だめだ。ぼくは何を言つているんだろう。ああ、もう、早くこの場から立ち去りたい。

でも、ぼくは中村から目をそらさなかつた。つてか、やつぱり見ていたかつた。

「ギヤハハはないよね、西山」と中村はぼくをにらみつけた。

「ないか。ごめん」

「ハハハだつたらあるかも」

「そつか。それ、見てみたい」

「なんだ、それ。西山、大丈夫?」

「どうなんだろう。ぼくは答えた。

「大丈夫じゃないかも」

(ひこ・田中 『好きって、きつい。』)

問一 「ぼく」の氏名を五字で答えなさい。表記は本文中のものに従うこと。

問二 一線A「目新しい」、B「ぼそっと」の本文中の意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、それぞれ記号で

答えなさい。

A 「目新しい」

ア もの慣れないと感じである

イ いまの世にあつた風である

ウ 清らかでけがれのない

エ 本当にまったく新しい

オ 今まで見たことがない

B 「ぼそっと」

ア 小声でつぶやくように言うさま

イ 暗い表情でひとり過ごしているさま

ウ 何もしないでぼんやりしているさま

エ 穴があいたかのように空白の部分ができるさま

問三 一線①「どうしてうのかな」の答えとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 表情豊かに人と接することがそもそも得意ではないから。

イ 学校には遠足と運動会という避けたい行事があるから。

ウ 授業では漢字を覚えなければならず乗り気がしないから。

エ 人間関係を築いていくのがわざわざ嫌になるから。

オ 学校自体好きではなくのびのびとふるまえないから。

問四 一線②「中村を見ていると、腹が立つたりした」の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なぜだか分からぬが中村を好きになつてしまい、思いを伝えられずに辛い。

イ 中村の気をひいても反応がとぼしく、どうすればいいのか途方に暮れている。

ウ 親しい友達とは距離<sup>きょり</sup>が生まれたが、中村に好意を寄せることをやめられない。

エ 中村と話している友達を見て、うらやましく思うと同時に妬ましく思つてゐる。

オ 中村を好きになつて以来、感情が制御<sup>せいぎょ</sup>できなくなり心がかき乱されている。

問五 一線③「どうして～わからない」とはどのような心情ですか。次の説明文の空らんに入る最も適当な言葉を本文中よりそれぞれ二字で探し、抜き出しなさい。

好きになるというのは思いが（A）深まり告白するという（B）をとると思つていたのに、  
中村を（C）好きになってしまった自分自身がいて、落ち着けないでいる。

問六 本文中には「ぼく」とその友だとのかけあいが挿まれています。その効果の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友だとの会話や遊びに集中できない様子を書くことで、恋する自分に酔う「ぼく」の内面を暗に示そうとしている。

イ 眼鏡を外したり遊びの輪から外れる様子が、中村に夢中になる「ぼく」の様子を連想させる関係になつていて。

ウ 友達に無愛想に応じる「ぼく」と対照させることで、中村の虜となつている「ぼく」の様子を浮き彫りにしようとしている。

エ 眼鏡を外してもなお中村がはつきり見えてしまう「ぼく」の様子を描く呼び水のような役割を果たしている。

オ 落ちつかない言動を繰り返す「ぼく」を描くことで、中村のこと地に足がつかない「ぼく」の様子を印象づけている。

問七 一線④「校門で中村に声をかけた」意図の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうしようもなく続く息苦しさをやりすごそうとした。

イ 自分が苦しむ状況にこれ以上逃げずに向き合おうとした。

ウ 何をしてもうまくいかない辛い現状を共有しようとした。

エ 現状を開くべく自分の思いを打ち明けようとした。

オ 好意を寄せていく相手の気持ちを確認しようとした。

問八 一線⑤「そんな答え」とあります、この部分についての説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分のもやもやした気持ちを晴らそうととりあえず言葉をかけたが、表情をあまり見せない相手に戸惑い、苦し紛れでぶしつけな言い方をしてしまった。その結果得られた、好きな人が心に抱く悩みが伺える応答。

イ ようやく辛い内面を理解してくれる友達と出会えてうれしかつたが、はつきりうれしさを伝えるのも無粋に思われた。そこでその場の雰囲気を壊さないよう、聞かれたことに対し簡潔に答えている応答。

ウ 自分が置かれた状況に耐え切れず意を決して言葉をかけたが、親密な関係が築けていないのに内面に触れるようなことを聞いてしまった。にもかかわらず素直に答えてくれている応答。

エ クラスが同じとはいって、ほとんど話したことのない相手から突然理不尽な言葉を投げかけられた。怒るべき部分は多々あるが、好意を不器用な形で表現してくる相手をかわいらしく思つて出た応答。

オ とにかく息苦しい状況から解放されるために言葉をかけたが、思いがけずある種の秘密を共有することができた。結果、お互いの息苦しさが解き放たれていくことに小気味よさがそこはかとなく感じられる応答。

問九 一線X・Yの表現の効果について、心情の変化に触れながら四十五字以内で説明しなさい。

二〇二一年度 豊島岡女子学園中学校入学試験  
国語解答用紙（一回）

※のらんには記入しないこと

問五	A
-----	
問六	B
-----	
問七	C
-----	
問八	

問一	
問二	A B
問三	
問四	

問四	
問五	
I	
II	
問六	
問七	

問一  
**A**  
**B**  
**C**

座席番号	
一	
受験番号	
1	1
氏名	
※のらんには記入しないこと	
得点	
※	